

東京医科歯科大学は小規模大学であり、皆さんご存知ないと思いますので紹介させていただきます。

東京医科歯科大学は学問と教育の聖地、湯島・昌平坂にあり、江戸時代は昌平坂学問所の講堂等があった場所にあたります。湯島聖堂は学問所の一部でありました。明治時代になり、文部省、東京大学、国立博物館(東京国立博物館と国立科学博物館)、東京高等師範学校(筑波大学)および東京女子高等師範学校(お茶の水女子大学)の同居を経て、1930年東京高等歯科医学校(東京医科歯科大学)となっております。

本学は1928年国立の歯科医養成学校として設立、1944年に医学科を設置し、東京医学歯学専門学校、1946年東京医科歯科大学(旧制)、1951年東京医科歯科大学(新制)となっております。比較的歴史が浅く、まだ発展途上の大学ですが、Times Higher Educationの世界大学ランキングでは日本の全大学中、国内8位、Quacquarelli Symonds (QS) ランキングでは国内15位、医学分野で国内4位、歯学分野は世界

世界に冠たる医療系総合大学をめざして 「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」



国立大学法人
東京医科歯科大学
学長 吉澤靖之 先生
Yasuyuki Yoshizawa, M.D., Ph.D.

で5位、国内1位、小規模大学ランキングは世界15位、国内1位と好位置にあります。

私が2014年に学長になり、大学の基本理念を作成いたしました。前文に「学問と教育の聖地、湯島・昌平坂に建つ本学は、医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献します。」と唱っております。「知と癒しの匠を創造する」自体は前大山学長の時に唱われましたが、私はグローバル化を見据えて世界へと翼を広げ人々の幸福に貢献するをいたしました。

本学は総合大学に肩を並べてスーパーグローバル(SGU)大学創成支援事業タイプA: トップ型(文部科学省)に採択されており、世界の人々の健康・福祉に貢献するため、良質な医療提供をする医学的側面だけでなく、環境、疫学、健康福祉政策等の社会的・経済的側面でも現地で人材育成をする責務があります。

本学は全体として教育・研究・医療とバランス良く、また

いずれの分野も将来とも卓越した大学をめざしております。

以下に、将来の医療を見据えて新しく立ち上げた事業の一部を紹介します。

統合先制医歯保健学について (図1)

長寿・健康人生推進センター設立

2010年からの念願で2015年にやっと立ち上げることができました。基本はゲノム情報に基づく先制医療の拠点と考えております。

現在はゲノム・エピゲノム情報、カルテ情報、生活習慣情報のデータを一括管理して生活指導(食生活、運動、精神指導など)をすると同時に、早期発見をする全身の網羅的検査を行う拠点であり、将来的にはウェアラブルデバイスによる生活情報、環境因子等をまとめてビッグセンターを立ち上げ、AI (Artificial Intelligence) による解析により新しい健康情報を得ることをめざしております。

大学院の改組 (図2)

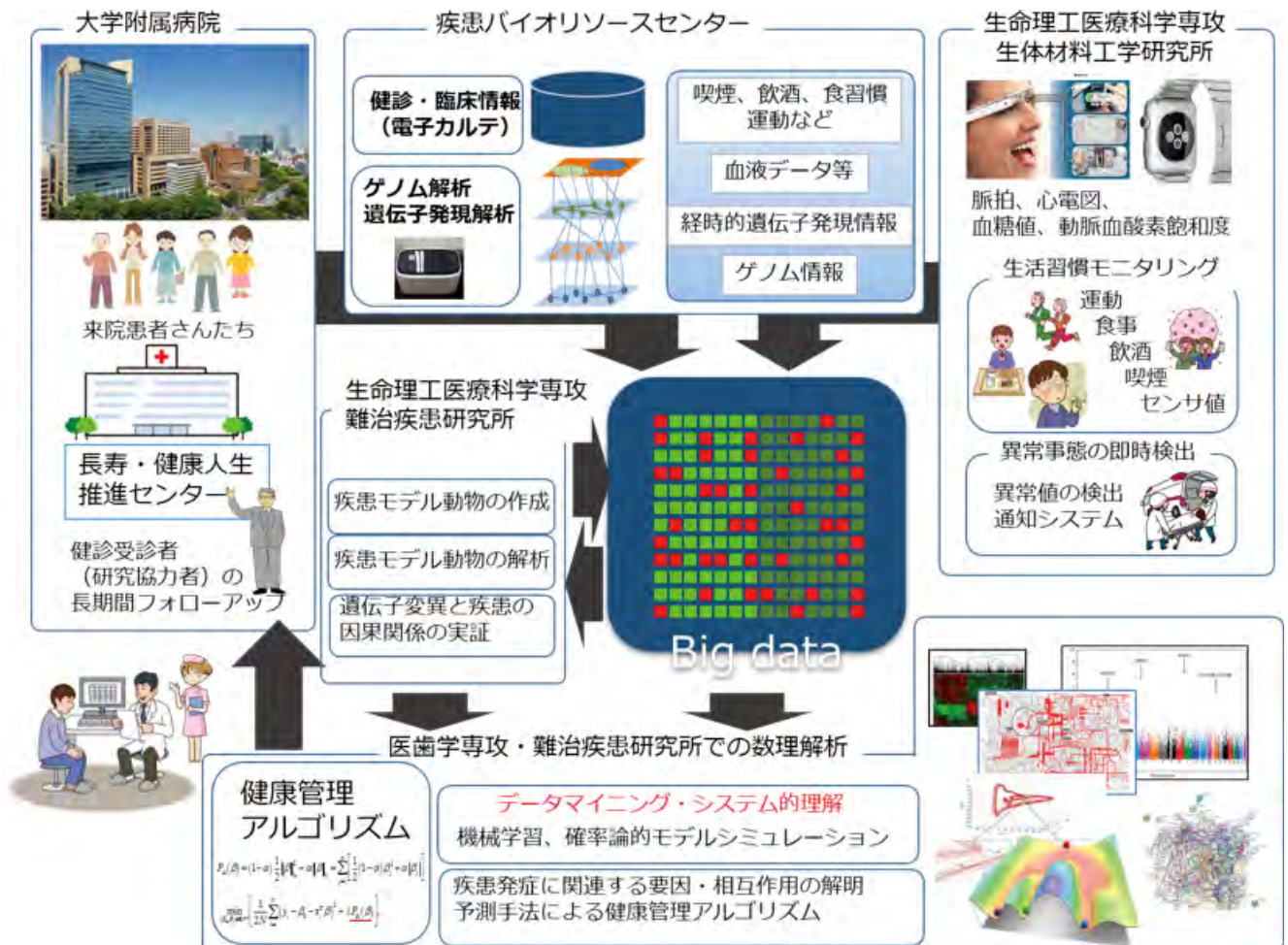
上述の先制医歯保健学を推進するため、大学院医歯学総

合研究科医歯学専攻(博士課程)に先制医歯理工学コース(臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム)、生命理工医療科学専攻(博士(後期)課程)に先制医歯理工学コース(先進医療デバイスIoT学プログラム/疾患生命創薬科学プログラム)、医歯理工保健学専攻(修士課程)に先制医療学コースを新設しました。同時に文部科学省によるデータ関連人材育成プログラムに採択されており、医療系IT・製薬等21社との共同事業を行うことにより、この分野の教育、研究が一層進むと期待しております。

統合研究機構

小さな大学であるため、個々の研究が先駆的でも外に対する力が弱いので大学総体として研究力をアピールするコンソーシアムを立ち上げました。基本的には本学の研究全体を俯瞰するため、イノベーション推進本部(後に産学連携で記載)、研究力強化イニシアティブ(研究IR)、研究基盤クラスター(リサーチコアセンター)、実験動物センター、生命倫理研究センター、疾患バイオリソースセンター、先端医歯工学創成研究部門(再生医療研究センター、脳統合機能研究セ

図1 統合先制医歯保健学の推進



ンター、創生医学コンソーシアム)からなる統合研究機構を立ち上げました。

これらの取り組みは、文部科学省より支援を受けている研究大学強化促進事業 (RU: Research University) のリサーチ・ユニバーシティ推進機構と協調して研究力アップに尽力しています。

先端医歯工学創成研究部門

まず、本年創生医学コンソーシアムを立ち上げ、以後順次ゲノム医学コンソーシアム (未来医療開発コンソーシアム (仮称)) として、免疫炎症コンソーシアム (難病克服コンソーシアム) を立ち上げる予定であります。

創生医学コンソーシアムは基礎・探索研究拠点と新生・応用研究拠点で構成され、前者は幹細胞・オルガノイドユニット、ゲノム編集・制御ユニット、スキャホールド・機能制御ユニットから、後者は消化器創生ユニット、軟骨・半月板創生ユニット、免疫細胞治療ユニット、硬組織創生ユニット、応用技術ユニットから成っており、すでに臨床

応用段階に入っているユニットもあります。

一方、これらのコンソーシアムとは別に若手教員・大学院生を中心とした基礎・臨床融合の次世代研究者育成ユニットを立ち上げました。

産学連携の取り組み

本学の知財だけでなく全ての知的資源を活用して産学官連携を推進するため、オープンイノベーション機能を独立した部門としたいと考えています。基本的には産業連携の将来像は図3の形になると考えております。

すなわち、近い将来に臨床応用が見通せない生命研究 (公費申請に利がある。基礎研究者はその先の臨床応用を見通す力がない)、近い将来臨床応用が見通せる研究、本学のシーズを臨床に応用する (知財) など3つのタイプの研究協調を実行したいと考えています。

したがってA:TMDU*オープンイノベーション共創制度 (以前の包括連携に近い)、B:TMDU 戦略的共同研究制度 (ジョイントリサーチ講座、シーズの臨床応用)、そしてアフィリエイト

図2 大学院の改組

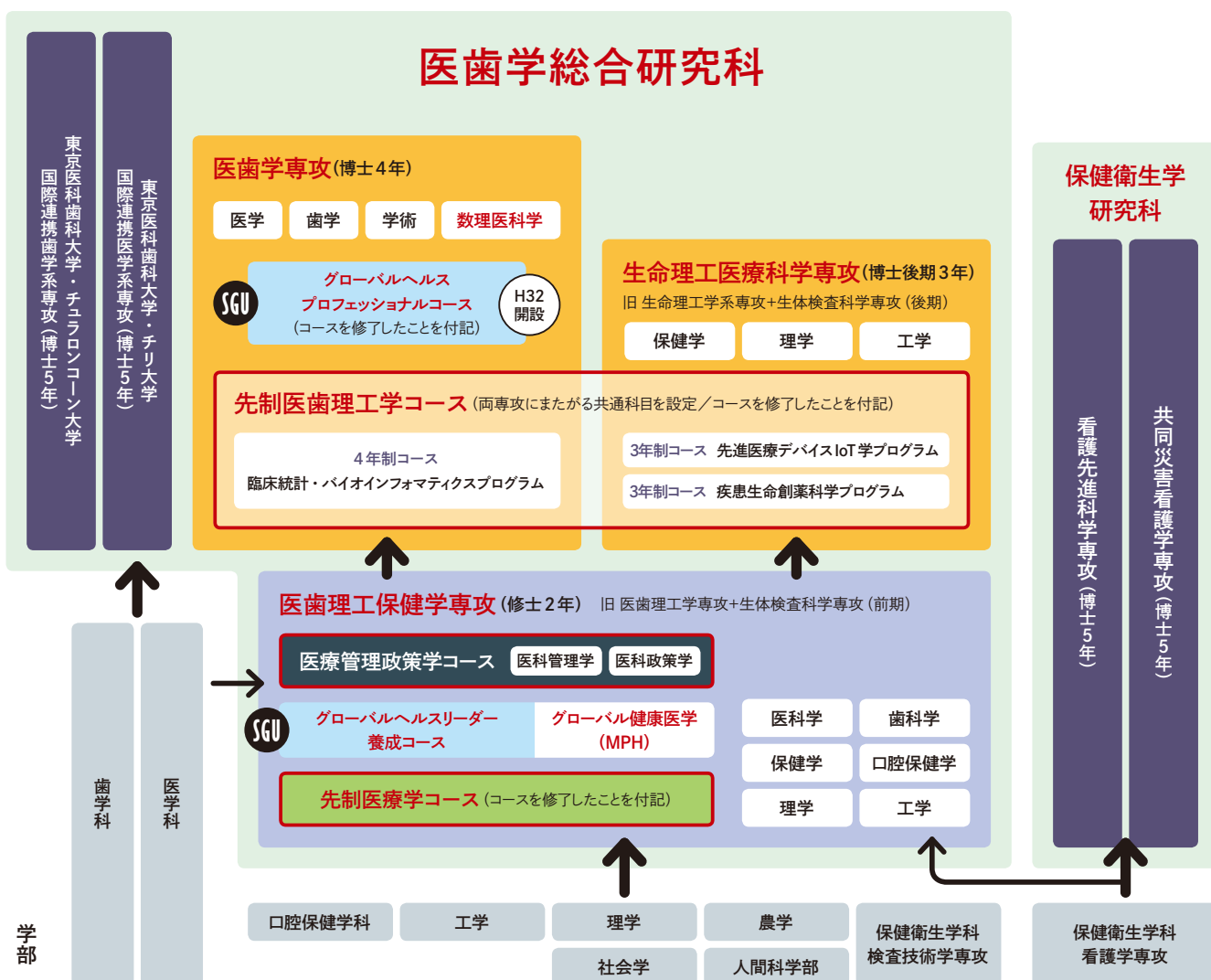
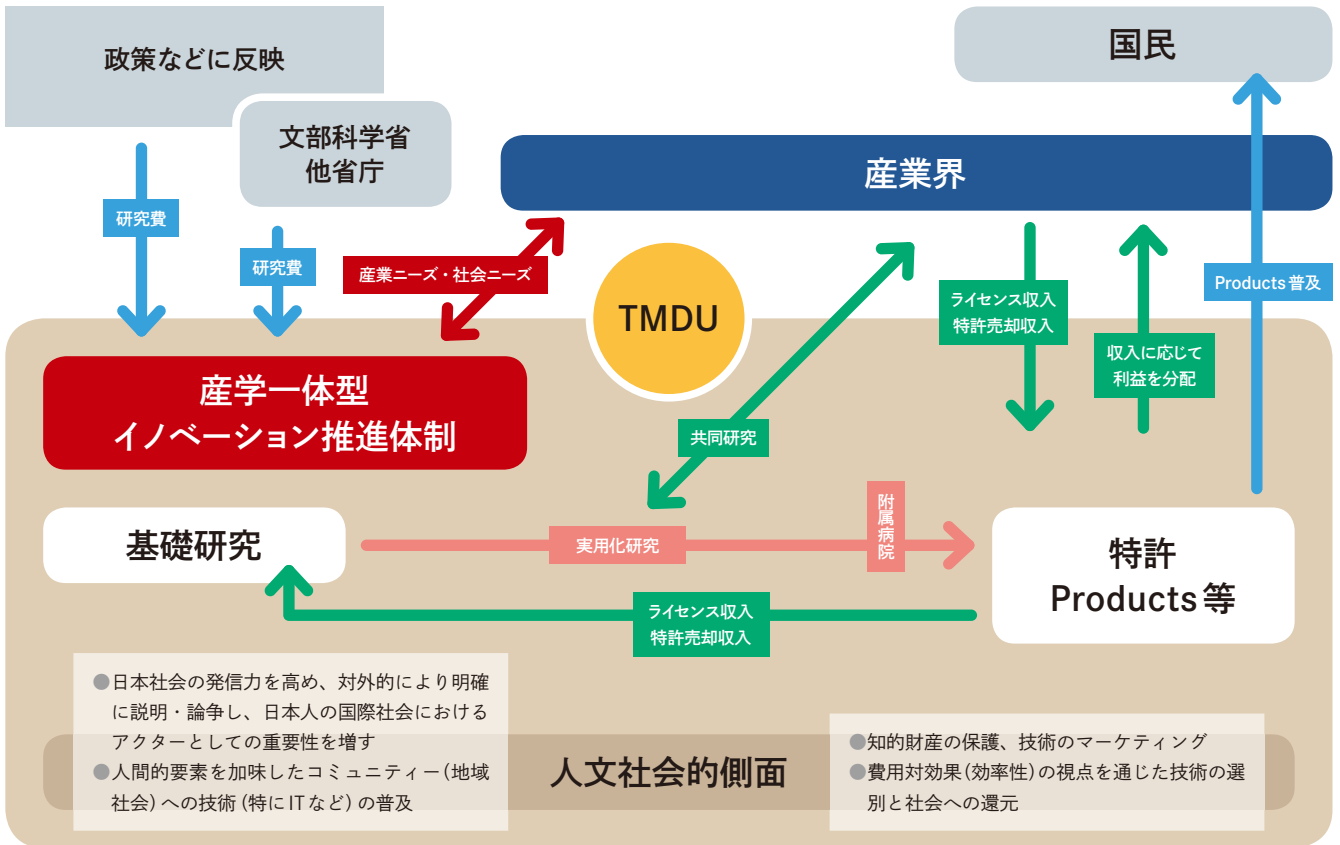


図3 TMDUイノベーション戦略



ッドプログラムとしてコンサルタント、人材育成に協力、セミナー、メールマガジンサービスなど連携の一手手前の制度を考えています。

臨床部門

紙数も少なくなくなっているのですが詳細は記載できませんが、派手さはないが真の臨床力は全国の大学でトップクラスと考えています。

医病については、それぞれが臨床研究を進めている特色ある疾病はもちろんでありますが、基本的臨床能力については、実践はもちろん、教育についても定評があり、研修医の応募が多く、マッチ率は日本一です。また歯病は日本一の規模であり、先端歯科診療センターをはじめ特徴ある診療を行っています。

*

以上、本学は学長のリーダーシップの元、組織改革、意識改革、財政改革が他大学より先行しており、年々早いスピードで進化を遂げています。以上、本学の特徴の一端を紹介させていただきました。

私自身は出身地である北海道の比布町のことや、身体と心を癒す医療人育成について少しくつろいで書いてみたかったのですが、地味な大学を知っていただく必要があるとの思いから、読み難くなったことを謝罪したいと思います。

また、先日行われた株式会社 日立製作所 東原執行役社長兼CEOと私の対談で医療の将来像について、他医療機関との連携を視野に入れたネットワーク、ウェアラブルデバイスによる患者情報収集、そして院内IRを包括したインテリジェント・ホスピタル(スマート・ホスピタル)の構想について、熱く語りあったのは勉強になりました。

※ TMDU (Tokyo Medical and Dental University) は国立大学法人 東京医科歯科大学の略称であり、登録商標です